

報道関係者 各位

今年もパッシブハウス・ジャパン設立7周年記念大会にともない

「第2回エコハウス・アワード」開催.

【現在エントリー物件募集中!】



2017年で7周年を迎える一般社団法人パッシブハウス・ジャパン（以下PHJ）は、賛助会員150団体、省エネ建築診断士2,000名以上（2017年1月10日現在）となり、全国で活発な活動を続けています。さて来春3月17日(金)開催予定の、PHJ設立7周年記念大会にともない、昨年に引き続き、今年も「エコハウス・アワード」を実施いたします。PHJ主催の省エネルギーで健康、快適で美しい住環境を募集する国内トップクラスの省エネ建築コンペティションになります。

1次審査は性能審査として、PHJ 燃費ナビアドバイザーの夏見諭が担当。一定の性能を満たした1次審査通過作品に対して、2次審査を行います。2次審査員としてPHJ代表理事 森みわ、理事 松尾和也、相談役 植田優、ゲスト審査員として第1回エコハウス・アワード大賞受賞者、西方設計西方里見氏、みかんぐみ竹内 昌義氏、HOME'S 総研所長 島原 万丈氏をお迎えします。省エネ性能だけでなく、機能性、コストバランス、未来を見据えたエネルギー設計、デザインアプローチ、アイディアなど多角的な観点から審査致します。

また、誰もが参加できるウェブサイト上での人気投票、設立7周年記念大会、当日参加者による投票もごさいます。持続可能な社会の実現のため「真の省エネ住宅」のご応募、心よりお待ちしております。現在、エントリー物件、募集中です！

■スケジュール

12月1日

エントリー受付開始

1月31日 20:00

エントリー受付締め切り・1次審査実施

2月下旬

1次審査結果発表／ウェブサイト、PHJメールマガジンにて結果をお知らせします。

3月17日 PHJ設立7周年記念大会

「第1回エコハウス・アワード」最優秀賞受賞者によるプレゼンテーション（西方氏）

1次審査通過作品をパネル展示

大会参加者による当日投票実施

ウェブサイト人気投票結果集計

審査員による最終審査

表彰式

■賞

・エコハウス・アワード最優秀賞

副賞、賞状、「建もの省エネ×健康マップ」掲載、PHJウェブサイト上にてインタビュー記事掲載

・パッシブハウスゾーン優秀賞

副賞、賞状

・パッシブハウス・ジャパン 推奨ゾーン優秀賞

副賞、賞状

・地域トップランナー基準優秀賞

副賞、賞状

・意匠賞

副賞、賞状

・リノベーション賞

副賞、賞状

・ウェブ人気賞

副賞、賞状

・イノベーション賞

副賞、賞状

・奨励賞

副賞、賞状

■審査員

1次審査

夏見 諭

(PHJ燃費ナビアドバイザー／株式会社夏見工務店代表取締役)

2次審査

森 みわ

(PHJ代表理事／キーアーキテクト代表取締役)

松尾 和也

(PHJ理事／松尾設計室代表取締役)

植田 優

(PHJ相談役／U建築計画代表)

西方 里見

(第一回エコハウス・アワード大賞受賞者／西方設計 代表取締役)

竹内 昌義

(みかんぐみ共同代表／東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授)

島原 万丈

(HOME'S総研所長／一般社団法人リノベーション住宅推進協議会設立発起人)

■応募条件

- 1 設計・施工のいずれかが、**パッシブハウス・ジャパン賛助会員**又は**省エネ建築診断士**であること。
- 2 カテゴリーは性能により 3ゾーン
 - a パッシブハウスゾーン
 - b パッシブハウス・ジャパン推奨ゾーン*
 - c 地域のトップランナー基準ゾーン

※「パッシブハウス・ジャパン推奨ゾーン」とは

省エネ建築シミュレーションソフト『建もの燃費ナビ』上において、【 $X < 160 - 2Y$ 】の範囲に該当する物件、『建もの省エネ × 健康マップ』上において、右上の暖色三角形ゾーンに入る物件となります。

- 3 新築・改修は問わない。
- 4 2015年1月1日～2016年12月31日の2年間に竣工のもので、未発表の実物件に限る。
(ただし、エントリー時点で竣工見込みのものを含む)
- 5 1チーム1物件とする。ただし、設計・施工などのチームメンバー構成が変わる場合はこの限りではない。

■エントリー方法／応募先：<http://award.passivehouse-japan.org>

※パッシブハウスとは

厳しい基準をクリアしたドイツ発祥の高断熱・高气密住宅のこと。

ドイツの物理学者ウォルフガング・ファイスト博士が発案し、1991年にパッシブハウス研究所で確立された省エネ住宅の基準。

「年間の冷暖房負荷」※1「気密性能」※2「住宅全体の一次エネルギー消費量」※3の3つの項目において、一定の基準※4を満たすと、パッシブハウスとして認定される。

この中で特にハードルが高いのが、年間の冷暖房負荷。基準をクリアするためには冷房・暖房それぞれでエネルギー使用量を床1m²・1時間あたり15kW以下に抑える必要がある。日本の「次世代省エネ基準」と比較すると、パッシブハウスは、次世代省エネ基準の約2~3倍の断熱性能を求められることになる。

※1 年間冷暖房負荷

室内の快適な温湿度を保つため、冷房・暖房で必要となるエネルギー量。

※2 気密性能（漏気回数）

密閉により、空気の流れや熱・水蒸気などの出入りを妨げる性能。

※3 一次エネルギー消費量

電気やガスなど、住宅で消費するエネルギーを作り出すために必要なエネルギーを熱量で表したもの。

太陽光や太陽熱、風力など、再生可能なエネルギーによる割合も重要視されている。

※4 パッシブハウス基準

「年間冷暖房負荷が各15kWh/m²以下であること」「気密性能として50Pa時の漏気回数が0.6回以下であること」「一次エネルギー消費量が年間120kWh/m²以下であること」上記の3つをクリアすることで認定される。

【参考 URL】

■PHJ公式ホームページ：<http://passivehouse-japan.org/>

■オーナーズボイス：<http://bit.ly/1hhArXt>

問い合わせ先

一般社団法人パッシブハウス・ジャパン（担当：吉田）

神奈川県鎌倉市大町 2-2-2 / 0467-39-5031 / admin@passivehouse-japan.org
